

主任児童委員連絡会活動紹介

磯子区

磯子区主任児童委員は現在16人で活動しています。通常は地区ごとの活動が多くありますが年に1度の磯子まつりは全員で取り組みます。

今年はいろいろな遊びの企画を新たに計画しています。継続して行っている広報活動の「ティンカーベル」では、歌や手遊びをとおして未就園児と触れ合います。内容は相談しながら、今できることを楽しく考えて準備します。今後も各機関と連携しながら、活動していきたいと思っています。

磯子区主任児童委員連絡会 代表 今井 裕子



地区会長研修 開催報告

令和6年6月5日(水)、横浜市健康福祉総合センターにて、横浜市民児協地区会長研修を開催しました。合同会社 泉恵造研修企画工房代表社員 泉 恵造氏より、「“組織のつむぎ役”となろう！～待ち遠しくなる定例会をめざして～」をテーマとし、具体例を交えながらご講義をいただき、グループワークも実施しました。

「民生委員・児童委員は安心感や安堵感を持つ灯台のように、地域の方にとって温かい笑顔で迎えてくれる“地域の灯台”でいて欲しい。また会長は組織の“灯台守、つむぎ役”として見守っていて欲しい。」というお話がありました。

地域の方との関わり方や定例会を改めて振り返り、今後の定例会が参加する委員にとって



抛り所・居場所となるよう考えていく研修となりました。



主任児童委員連絡会ミニ研修

令和6年7月9日(火)連絡会後に「朝のこども食堂について実施区の取り組みから学ぶ」というテーマでミニ研修が行われました。

事例発表者は、鶴見区主任児童委員代表の中西英一氏、「朝ごはんだよ！全員集合」代表の中西美里氏、緑区主任児童委員代表の高林綾子氏、都筑区主任児童委員代表の木村博子氏の3団体4名でした。地域の理解を得た場所の確保、小中学校へのチラシ配布の工夫、有志の方々による食材の提供や助成金の確保など、活動のポイントは地域によって様々でした。朝早くから活動してくれる人材の確保などについても伺うことができました。

皆さんが楽しそうに活動報告をされていることが特に印象に残りました。育ち盛りの子どもが朝食を抜くことについては、身体面はもちろんのこと、精神面や学習面においても昨今の課題となっています。少しずつ他地域でもこのような取り組みが増えていくとよいなあ、としみじみ思った研修でした。

広報紙作成委員会
魚谷 晶子



編集後記

新型コロナ感染も落ち着き、日常を取りもどし地域では行事やイベントも活性化してきています。民児協の福祉活動も少しずつコロナ前に戻りつつあります。早いもので来年は一斉改選の年にあたります。各地区とも欠員に頭を悩ませています。団塊の世代も定年を迎える年になります。民生委員の負担軽減や限定的な定年延長の実施や協力員制度導入など検討をしています。広報紙を通じてやりがいのある福祉活動の推進や情報を伝達し暮らしやすく安心して生活できる地域を引き続きめざして行きます。

広報紙作成委員会 委員 小林 政晴

【委員長】 松浦 正義
【顧問】 梁田 理恵子
【委員】 小林 政晴 今井 典代
黒川 曉博 中村 好美
鈴木 敦子 小嶋 優
紅林 千津子 魚谷 晶子

よこはま民児協だより



会長 あいさつ

本年7月1日に89名の民生委員・児童委員と11名の主任児童委員が新たに委嘱され私たちの仲間になりました。「民生委員は大変だ。」と地域住民の方々によく言われていますが、決して大変な活動ではなく、地域の福祉に役立ちたいと思う方々の集まりだと思います。地域の自治(町内)会長さんから頼まれ断り切れずに引き受けた方もいらっしゃるでしょう。しかし、支援を受けた方からの「ありがとう」という感謝の一言で民生委員活動にやりがいを見出していると思います。

一方で欠員が埋まらず、ご自分の担当地域に加えて地域を見守っている委員のご苦労は計り知れません。民生委員のなり手確保に向けて国でも検討会が設置されますが、横浜市においても令和5年度から活動の負担軽減について市民児協と協議を重ねています。

私たちの生活環境が変化してきた中で民生委員活動を担ってもらえる、そして活動を継続できる、この環境を早急に整えることが求められています。来年12月の改選に向け、活動の軽減に地域の特性を生かしつつ、委員同士知恵を出し合い取り組んでいきましょう。

横浜市民生委員児童委員協議会 会長 石井 マサ子



関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

参加報告

第84回関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会が令和6年7月18日(木)、19日(金)に静岡県沼津市で開催され、横浜市民児協理事8名、事務局2名で参加しました。

1日目は全体会と記念講演が行われ、全盲の弁護士 大胡田 誠氏より「全盲の僕が弁護士になった理由～あきらめない心の鍛え方～」というテーマでお話いただきました。自分の思いや態度は相手に伝わる「鏡うつし」とおっしゃっており、信頼関係を築くために、相手への関わり方を大切にしているという内容でした。

2日目は分科会協議が行われ「子育て・子育てを支える地域づくりに向けた児童委員・主任児童委員の連携への取り組み～主任児童委員制度創設30周年を迎えて～」のテーマで、横浜市から黒川 曉博 理事(港南区)より実践報告を行いました。港南区主任児童委員連絡会が主体で企画する区域の取り組みである「港南区おやこコンサート」や、地区域の活動である乳幼児とその保護者が自由に公園に行き遊べる「公園あそび」の活動を紹介しました。民生委員と連携しながら開催し、「民生委員」「主任児童委員」それぞれの視点を大事にしながら進めていることを発表しました。

講演会終了後には、情報交換会も開催され、他都市と交流し、つながりができました。



横浜市民児協の参加者



黒川理事による実践報告

5月2日 区会長・副会長研修 開催

テーマ

元気が出る組織づくり

武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科 教授 渡辺 裕一 氏にお越しいただき、「元気が出る組織づくり」をテーマとした研修を行いました。当日は、横浜市主任児童委員連絡会の代表・副代表にも参加いただきました。グループワークでは、質問に対し、思っていることを付箋に書き出し、模造紙に貼り付け、自身の思っていることをグループ内で共有しました。



グループワークに参加された皆さんにききました！

あなたの強みはなんですか？



民児協メンバーの強みはなんですか？



研修の感想

- >>> 「見方をかえれば全て強みに変える事ができる」という考え方の大切さを学びました。
- >>> 自分に強みがあることを知り驚いています。
- >>> 改選のたびにメンバーが何人か入れ替わるので、組織づくりのヒントになります。
- >>> 「一人ひとりの強み」を活かしていくことを大事にしていきたいです。



メンバーの強みを知ることで、一人ひとりの強みを活かす民児協活動へつながります！

- ★ 「強み」を活かせる活動への協力を依頼しやすくなる！
- ★ 「強み」を発揮することで、活動のモチベーションアップ！
- ★ 人・組織が持っている力が引き出されて、より良い活動が出来る可能性が高まる！



ぜひ定例会等の場で、自身の強みに向き合い、メンバーの強みを確認する機会を作ってみてください。



毎号3区ずつ、
特徴的な取組をしている地区を
取り上げていきます。

中区 第四南部地区

安否確認は「楽しい」「ふれあい」で！

私たち第四南部地区は、社協との共催で、「お楽しみ食事会」、「ふれあいサロン」を実施しています。「お楽しみ食事会」は、近隣交流活性化を目的とした交流会です。

提供するお食事は、民生委員全員が知恵を出し合い、楽しく季節感があり、衛生にも十分気遣った内容となっており、参加人数は50名前後と毎回好評です。お食事の後に直近の回では、地元山手警察署に「特殊詐欺防止対策」のお話を頂き、参加者からとても為になったとお喜び頂きました。他にも、地元ボランティアによる「民謡」「舞踊」「落語」「オカリナ演奏」など、毎回趣向を凝らしたプログラムをご用意し、皆さまに楽しんで頂いております。

「ふれあいサロン」では、「スマホ教室」や「山手署防犯教室」などが好評でした。楽しみ、学ぶことはもちろん、お出かけの機会を積極的に作って、健康な生活、体力の維持へと繋げて頂ければ、私たち民生委員も嬉しく思います。

会長 高橋 春美



緑区 東本郷地区

様々な取組で様々な世代と ～地域での見守り活動再開～

東本郷地区民生委員児童委員協議会では、以前から「お一人暮らしの昼食・懇談会」や「ふれあいバス旅行」を開催し、高齢者の方の地域での見守りにつなげていましたが、コロナ禍で中止を余儀なくされていましたが。昨春コロナが5類になり、どのような形で再開するのがいいのかが皆で知恵を絞りました。感染リスクを考慮して食事会形式ではなく、どんどん巧妙化する詐欺から身を守るための講習会等を企画し「ふれあいのつどい」として開催しました。同一内容で2回開催し総勢100人以上の参加があり、充実した会になりました。

東本郷地区ではそのほかに、地区社協や自治会と連携して、毎週、朝のこども食堂や学習支援なども実施して、幅広い年齢層の見守りにつなげています。

会長 氣田 百合子



青葉区 荏田西地区

ラジオ体操で深まる交流

荏田西地区では「ラジオ体操でつながる地域づくり」を始めて8年目になります。きっかけは専門医の「ラジオ体操が認知症予防に効果的だ」という指摘でした。早速ボランティアの方々の協力を得ながら体操指導の学習、告知のチラシ作成、CDプレイヤーの用意など準備を進めました。

こうして2017年5月スタート。コロナ禍でも、緊急事態宣言が出た期間以外は活動を行いました。「外出の機会が減ると気分が落ち込み、筋力も低下する」という意見があり、屋外なら「3密」も避けられると考えたからです。

「運動したうえ、いろんな人と交流できて楽しい、もっと機会があればいい」と好評で、現在は体操会場の公園を4カ所に増やし、それぞれ曜日を決めて週4回開催へと拡大。体操後にウォーキングの企画なども実施すると参加者50人を超えるときもあり、地域にすっかり根付いた活動になっております。

会長 平野 香菜

